太宰府中学校１学年だより

第7号　　R5.6.21　　文責：１学年主任

少しずつの「不満足」

今日は班替えが発表されます。
体育祭・中間考査を経て、１年生全体が少しずつ成長するために、自分たちの課題は自分たちで解決する「自治の力」を身につけるために、今回班替えを行いました。
事前に、学年集会を開いて、私から「班替えの目的」や「班替えのルール」について説明しました。皆さんが、しっかり聞いてくれたので、とても安心しました。
その後、各学級で班替えに関するアンケートをとりました。班長の推薦や、班替えしたときに身体面で配慮してほしいことなどを書いてもらいました。

皆さんから推薦された班長が、昼休みや放課後の貴重な時間をつかって班を決めました。彼らが皆のために精一杯考えてきめた班です。皆さんもまちどおしかったことでしょう。
そんなときにこういう話をするのはどうかと思うでしょうが、ぜひ班替えの発表の前に聞いて欲しいことがあります。

実は私はあまり班替えは好きではありません。なぜかと言うと、これまで、班替えでいい思い出がないからです。必ず最後に、「前の班の方がよかった」とか、「つまらない」と言って不満を出す人がでてきます。皆さんの小学校の時の班替えはどうでしたか？

だいたい、学級に４０人近くもいて、みんなが満足の班替えなんて不可能なんじゃないかと思います。一部の人たちにとって、大満足の班替えができたとします。でも、反面、それと同じくらいの人たちが、不満足の気持ちをもっていると思ってください。学級集団の中では、残念ながらそれが当然のことなのですが・・・それでもみなさんは班替えを楽しみにします。

でも、みんながみんな班替えをしたいということではないということも頭に置いておかなければなりません。繰り返しますが全員の人が満足する班替えは不可能のような気がします。ではどうすればいいのか？・・・大切なことは、一部の人だけが満足をする班替えじゃなく、みんなが少しずつ不満足を持つ班替えにしていくことではないかと思います。

私が中学校のとき担任の先生がよく言われていました。「みんな少しずつ不満足を持った方が、みんな幸せになれるんですよ」って。いったいどういうことかわかりますか？

先日、ある聾（ろう）学校のことが紹介されていました。その学校の教室に入ると、教室中に赤い線が張られているそうです。少しでも補聴器の聞こえがよくなるようにするためのアンテナだということでした。

廊下や教室のあちこちには、電池の量をチェックするチェッカーが置いてあります。
この学校の生徒にとって、補聴器は音のある世界と自分を結ぶ唯一の手段なのです。
だから、電池がなくなるということは命の危険をも伴（ともな）います。

授業は、一般の中学生と同様の教科以外に、相手の口の形を見て、何を言っているのかわかるようになるための授業もあります。聾（ろう）学校というと、手話を思い浮かべますが、この学校では、口の形で言葉を読み取る訓練をしているようです。この学校はわずかな子ども達が、よりそって学んでいる学校です。助けあい、協力しながら・・・。

朝と夕は、みんなバスで登下校します。毎日バスの中で聾（ろう）学校の生徒達が悪戦苦闘（あくせんくとう）しています。行き先を聞いても、相手に伝わらなかったり、無視されてしまう日常。歩道をあるいていても、自転車にひかれそうになり、怒鳴られる日常。そのようなことが日常として繰り返されているのです。でも、それにもかかわらず、生徒達は、元気に登校してくるんだそうです。冷たい社会から、このあたたかい学校という社会に希望をもって登校してくるんです。

この学校の生徒は一人ひとり、不自由さを持っています。でもその不自由さがあるからこそ協力が生まれ、助け合えるのではないかと思います。
何の不自由も無いのが当然という中学生と、不自由があるのが当然という中学生。
不自由さを嫌がるわたし達は、何か大切なことを失っているのかもしれません。
「みんな少しずつ不満足を持った方が、みんな幸せになれるんですよ。」この言葉の裏にはそんな温かい思いがかくれていたのです。

さて、話をもどしましょう。今日発表があって、班を替わった後の皆さんの顔はどうなっているのでしょうか？自分の思い通りになって大満足？それとも、思いがかなわず不満足？・・・考えてみると私の知っている先生が言われていた「みんな少しずつ不満足を持った席」と言うのも非常に難しいことなのかもしれません。

今の皆さんの様子は、班の仕事も、日直の仕事も、掃除の活動も、よく頑張っていますが、時折「この程度でいいか」といういい加減さもちらほら見うけられます。
しかし、この班替えから来る「不満足」さは、これからの１年生を大きく変えるチャンスになると確信します。班長達は知恵を絞って、一人一人を実によくみながら、班をつくりました。その結果にあなたが多少なりとも不満足があれば、その裏に隠されている「温かい思い＝不自由さがあるからこそ生まれる協力や助け合い」をぜひ新しい班で掘り起こして欲しいと願っています。